

みかん(柑橘類)の 秀品率 が大幅に向上！ 糖度アップ、浮皮是正、鮮やかな色上げに

発酵リン酸液肥「ファーマント」 & 発酵リン酸+カルシウム液肥「紅心(べにこころ)」

● 温州みかんによる試験結果 [農業改良普及センター等(九州地区)]

(1) ファーマント

- ① ファーマント処理区(以下、処理区)は、無処理区より果実の熟期が充実し、収穫開始が1週間前進した。
- ② 9月下旬～10月上旬収穫分で処理区、無処理区を比較したところ、
 - ・ ファーマント処理区は無処理区と比較し、秀品率以上の割合が、1.45倍であった。
 - ・ 処理区は糖度10%以上の割合が無処理区の1.83倍、酸については両処理間に差は見られなかった。
- ③ 処理区は無処理区と比較し実締まりがよく、比重が高く、浮皮果が見られなかった。
- ④ ファーマント使用による薬害は認められなかった。

[2年間の試験データ]

a. 露地みかん

品種	日南	岩崎	上野	原口	させぼ温州	青島	金峰	デコポン
測定時期	10月上	10月上	10月上	11月下	12月上	12月中	12月中	12月中
糖度	11度	11～12度	11度	14～16度	13～15度	13～15度	13～15度	13～15度
収穫量(2年平均)	-	-	5～6t/10a	5～6t/10a	7t/10a	4～5t/10a	-	-

b. ハウスみかん

品種	宮川早生7年生	上野早生18年生	興津25年生	デコポン
栽培面積	12a	12a	10a	10a
糖度	12～13度	12～13度	13～14度	13～14度
収穫量(2年平均)	8.6t	7.5t	6.5t	4～5t

(2) 紅心(べにこころ)

- ① 処理区は無処理に対し着色が早く、表皮が綺麗であった。
- ② 同一ハウスみかん(長崎県)の処理区、無処理区の比較写真
 - ・ 無処理区(平成21年6月5日撮影)
 - ・ 処理区(平成21年6月5日撮影)



この色づきの違いをご覧ください



● 使用方法

(1) ファーメント

① 露地栽培・・・隔年結果の是正、糖度アップ、日持ち向上、浮皮是正、花芽分化促進など

- ・ 開花期前後（4/下～5/上頃）にファーメントの 500 倍希釈液を 7～10 日おきに 3 回散布。
- ・ 増糖期（7/上～8/上頃）にファーメントの 500 倍希釈液を 7～10 日おきに 4～5 回散布。
- ・ 着色促進・減酸・増糖対策として収穫 30～45 日前頃から 15 日前まで、3 日間隔 3～4 回散布。

※ 収穫後、ファーメントの 500 倍液と窒素肥料（アミノ酸液肥など）の葉面散布を
年 2～3 回行なうと樹勢回復と花芽分化促進の効果が期待できます。

備考・・・整枝剪定により、収量及び品質に差が出るため、的確な剪定を心がける必要があります。早生種は出蕾後（有葉花確認後）～開花直前まで、晩生種は有葉花の強弱の確認後、開花直前までと、果径 1cm 以降～6 月下旬までに混み合った部分を剪定する。

② ハウス栽培・・・糖度アップ、果実肥大、着色向上、浮皮是正、花芽分化促進など

- ・ 夏季剪定後、緑化推進・結果母枝の充実促進を目的に、ファーメント 500 倍液を 5～7 日おきに 4～5 回散布。
- ・ 10 月下旬以降、花芽分化促進・着果促進目的としてファーメントの 500 倍液を加温する 45 日程度前から 3 日連続散布を 3 日間隔で 2～3 回散布する。
- ・ 開花前後に 500 倍希釈液で 2～3 回散布。
- ・ 水切り後（増糖期）の水戻し時期以降に、10a 当りファーメントの 500 倍液 1000 リットルを樹幹下灌水で 7～10 日おきに 2～3 回行なう。

備考・・・整枝剪定により、収量及び品質に差が出るため、的確な剪定を心がける必要があります。適正な側枝作りによって、樹幹下まで日がよく入ることが必要。ハウスミカンの場合、呼吸と蒸散量が多く、土壌から水分を多く必要とするため、完全な水切りを長期間行なわないよう注意が必要である。（葉及び果実へのストレス過多となる）

(2) 紅心・・・着色向上、鮮やかな色上げ、日持ち向上、食味向上（収穫前の仕上げとして）

- ① 2～3 分着色 ② 出荷 7～5 日前の時期

以上、2 回に分けて 500 倍希釈で葉面散布を行なってください。

使用方法是、露地、ハウス同様の方法でご使用ください。

※ ファーメント & 紅心の使用上の注意

- ・ 「石灰硫黄合剤」、「アルカリ性農薬」、「マシン油」との混用は行なわないでください。
- ・ 銅剤との混用及び近接散布は避けてください。